

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間: 2010年11月上旬から12月中旬までの旬別
 対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域
 対象漁業: さんま棒受網漁業
 対象魚群: 南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に減少し、11月上旬は断続的となる。

(2) 漁場: 11月上旬は襟裳岬沖に漁場が残るが、終漁となる。

2) 三陸海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に増加し、11月上旬は中位水準となる。11月中旬から減少し、11月下旬には低位水準となる。12月上旬には断続的となり、終漁となる。

(2) 漁場: 11月上旬は、三陸北部～南部に漁場が形成される。11月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量: 11月上旬は低位水準であるが、来遊量は徐々に増加し、11月中旬～下旬は中位水準となる。11月下旬には減少を始め、12月上旬～中旬は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月上旬は、常磐北部において漁場が形成される。11月中旬に漁場が南部まで広がる。12月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

2. 予測の概要

海 域		11月上旬	11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬
道東海域	来遊量	— →				
	動向	断続的				
	漁 場	襟裳岬沖				
三陸海域	来遊量	→	↘	↘	— →	
	動向	中位増加	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	北部～南部	南部	南部	南部	
常磐海域	来遊量	→	→	↘	↘	→
	動向	低位増加	中位増加	中位減少	低位減少	低位水準
	漁 場	北部	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部

3. 漁況の経過概要

(10月中旬)

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月上旬を下回り、低位水準となった。前年より下回っている。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半に来遊量は減少した。

(2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石～釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南南東 50～70 海里～釧路南 30～40 海里付近(表面水温 13～14℃)。ほぼ連日、小型船数隻～60 隻程度操業。数トン～20トン程度漁獲。

襟裳岬南 65～南南東 120 海里付近(表面水温 14～18℃)。連日、大型船が数隻～50 隻程度操業。大型船で数トン～85トン漁獲。

(3) 魚体

22～25cm モードの中型魚主体。期前半には体長 30cm モードの大型魚主体の群もあった。大型魚は体重 140g 台が多い。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月上旬を上回ったものの、前年を大幅に下回り、低位水準であった。日別 CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、来遊量は徐々に増加した。

(2) 漁場

三陸海域の主漁場は、久慈～宮古沖であった。

久慈東南東 40～130 海里～宮古東南東 40 海里付近(表面水温 15～18℃)。ほぼ連日、大型船が数隻～40 隻程度と、小型船が数隻～10 隻程度操業。大型船で数トン～90トン漁獲。

なお、三陸海域よりはるか東沖の久慈東 200～240 海里付近(表面水温 12～13℃)でも、19 日夜以降、大型船が数隻～40 隻弱操業。数トン～105トン程度漁獲した。

(3) 魚体

30～31cm モードの大型魚主体。大型魚は体重 140g 台が多い。